

優秀経営農林水産業者

部門	氏名（住所）	受賞理由
水産	明信水産 株式株式会社 代表取締役 板倉 淳司 (岩美町)	<ul style="list-style-type: none"> 明信水産株式会社は明信丸の当時の船長で代々個人経営をしていた板倉氏の父により平成23年に設立。 国の燃油対策事業の活用、出港時や漁場移動時に減速航行を行うことで、燃油使用量の削減に努めている。 冷凍機の導入により、未利用魚の活用が可能となり単価向上が図られた。 漁獲データの蓄積による分析を行い、資源状況や海況、漁業者間の情報交換を通じて、その年の操業計画の見通しを判断することで、近年特に激しい環境の変化に対応し、安定した水揚を確保している。 技能実習生、特定技能の外国人受入をはじめ、後継者の育成についても積極的に行い、従業員の若返りを図るなど、先を見据えた経営を行っている。
園芸	岩本 洋士 (琴浦町)	<ul style="list-style-type: none"> 23年間農協職員等に従事し、果樹の生産、販売、営農指導、組織運営等を熟知しており、その経験で培った梨栽培の技術や知識を活かして平成18年に就農後、模範となる梨経営を実践してきた。 鳥取県内で普及し始めたジョイント栽培について、その栽培のメリットに着目し、琴浦町でいちはやく導入、ハウス二十世紀では、温湿度管理、新梢及び着果管理、病害虫防除等の管理を徹底し、黒斑病を抑えながら、盆前出荷100%を目指して栽培している。 品種を早生、中生、晩生とバランスのとれた構成にすることで、作業分散を図るとともにリレー出荷を実現。 生産者及び関係機関からの人望が厚く、平成23年に琴浦梨生産部発足後は、資材担当、副部長、選果場長と要職を歴任し、尽力している。また、令和元年度からは琴浦梨の将来を考える会のメンバーとしても活躍しており、地域へ多大な貢献をしている。
林産 農産	株式会社 神戸上農林 代表取締役 内田 敦郎 (日南町)	2 農林水産大臣賞に記載

部門	氏名 (住所)	受 賞 理 由
園芸	北濱 昭 (北栄町)	<ul style="list-style-type: none"> 西瓜を経営の柱として、西瓜の後作に中玉トマト、抑制メロンを栽培。家族を中心とした経営形態で令和4年度より息子2人が経営に加わり、将来を見据えた経営基盤の構築も図られている。 西瓜では産地内でいち早くハウス一条植え栽培に取り組み、生産性の向上や生産資材コストの削減に努めている。また、園芸用低コストハウスを積極的に導入し施設化を行い経営の安定に努めている。 大栄オリジナル野菜友の会の会長として近年の課題である夏場の高温強日照条件下での収量減少の問題に対して品種試験や資材試験を積極的に取り組み、生産性の向上や収益確保に向けた取組を進めて来た。 家族経営が中心の大栄地区において他の模範となる存在であり、産地内の牽引役として多大な功績と貢献がある。
農産	内藤 賢一郎 (伯耆町)	<ul style="list-style-type: none"> 苗づくりや田植えの段階から収穫期が集中しないように標高差を利用した作付け体系を実践しており、標高の高い日光地区から平地の多い溝口地区で水稻栽培を行っている。 労働力不足解消のため、平成30年からスマート農業機械を積極的に導入し、ラジコン草刈り機、田植え機、コンバイン等でKSAS 対応機械を導入。圃場管理等をスマート化し、効率的な営農を実践してきた。 化学肥料制限がある「特別栽培コシヒカリ」について、有機肥料を活用して栽培しており、令和6年の日野川源流米コンテストで優秀賞を受賞。 労働力についてR7年より後継者が就農し、育成に力を入れている。 地域の高齢化とともに農地の貸付要請が増えており、近年この要望に応えるため、さらなるスマート化を推進し、経営の安定化と中山間地域での農地の有効活用を意識した農業経営の発展に努めている。
園芸	村田 彰 (境港市)	<ul style="list-style-type: none"> 「良いネギをつくること」を何よりも優先しており、設備や肥料への投資を惜しまず、年間を通して安定した出荷及び経営を確立している。 J A鳥取西部の白ねぎ部会における副部会長を務めるとともに、本県の指導農業士としても活躍しており、白ネギ産地の優秀経営体として地域の白ネギ農家への影響も非常に大きい。 経営者以外は全員女性であるため、休憩場所の確保、水洗トイレや脱衣場の設置を行う等、女性も働きやすい環境整備を進めており、女性の農業活躍を推進するような、近代的な経営を行っている。 これまで5人のアグリスタート研修生を受入れ、新規就農者や若手後継者を対象とした「ねぎの学校」では講師を務めるなど、新規就農者への技術的な指導や助言には高い信頼があり、地域と一体となって弓浜地区をネギの一大産地として盛り上げようという熱意を持っている。

部門	氏名 (住所)	受 賞 理 由
園芸	やまだ ひとし 山田 均 (湯梨浜町)	<ul style="list-style-type: none"> 平成 19 年にナシ栽培を引継いだ直後、園内道整備やスピードスプレーヤの導入、「二十世紀梨」中心の品種構成の見直し、ジョイント栽培などの省力化技術の活用など、高収益で持続可能なナシ栽培を推進してきた。 「二十世紀」では短果枝剪定による省力化を図り、オールバック整枝や 3 本主枝整枝で作業効率を向上、「新甘泉」は夏枝誘引で翌年の花芽確保と安定収量を実現。 県委託の「二十世紀梨」生育調査を約 40 年実施しており、その年の開花予測、肥大予測を一早く把握。東郷果実部の生産指導会長として栽培技術の普及と防除暦・施肥設計の策定にも中心的役割を担い、若手指導員の育成にも尽力するなど生産者の模範でありリーダーでもある。 常に自らのナシ栽培の限界に挑戦し続け、多品種栽培による労力分散やジョイント仕立てによる作業効率化、担い手育成など地域農業の発展に大きく貢献している。
畜産	やまね たかゆき 山根 孝幸 (北栄町)	<ul style="list-style-type: none"> 平成 15 年に親元で肉牛（交雑）肥育経営を手伝う形で就農。「鳥取和牛」の躍進により、同業の農家が和牛飼育にシフトするなど、目まぐるしく変化する畜産情勢に左右されることなく、地域の酪農家と連携し良質な素牛（交雑）の確保に取り組む。 堆肥処理と自給飼料の生産を効率的に行い、良質な粗飼料の安定確保、飼料費の軽減対策に努めている。 令和 2 年に開催された第 31 回南港市場交雑牛枝肉共励会で最優秀賞を獲得するなど肥育技術に優れている。また JA 鳥取中央や生産部会で開催する枝肉共励会や枝肉研究会でも度々入賞している。 肉牛肥育生産部活動では、今年度より生産部長に就任し生産部のリーダーとして今後益々の活躍が期待されている。
畜産	よしだ まさき 吉田 昌紀 (北栄町)	<ul style="list-style-type: none"> 獣医師による繁殖検診を受診し、繁殖成績が改善されたことで、後継牛を確保、低能力牛の更新を進めている。 安定的に後継牛を確保するため、未経産牛は乳用牛性判別精液を積極的に授精、経産牛は和牛受精卵移植を行い、副産物収入につなげている。 乳牛の飼養管理を徹底し、疾病の予防を心掛けているため、疾病による廃用が少なく安定した生乳生産を行えている。特に哺育牛の管理においては、長年の経験と細やかな管理で、手間のかかる哺乳子牛を健康に管理し、健全な後継牛育成に貢献している。 牛舎が住宅街の中に立地しており、牛舎の敷地面積は決して広くはないが、自給飼料を活用して飼料コストを抑え、飼養管理の徹底により牛の疾病を予防、和子牛・F1 子牛生産による副産物収入を得るなど、堅実で無駄のない経営を実践している。